

むらづくりに学ぶ

視察報告

昨年10月8日～10日、12名の町議会議員で宮崎県の中山間地域3町2村へ視察に行ってきた。どの自治体においても、少子高齢化や過疎化が進む中、地域資源を生かした独自の産業観光事業・移住定住対策を積極的に行っている行政職員や住民の姿勢が印象に残りました。共通課題を持つ川根本町にいま足りないものは何か…大いに考えさせられた充実の3日間でした。

有機農法、照葉樹林など地域資源を生かした移住・定住施策 ～綾町における産業・観光のまちづくり～

綾町の目指すまちづくりの理念は、自然との共生を図りながら地域の活性化を進めていくことであり、それに向けて官民一体となった取り組みが行われている。日本最大規模の照葉樹林の保護、農産物の安全性と自然環境に調和した有機農法の推進、固有の自然資源、地域資源を活用した「農村と都市との交流共生」の推進、交流拠点の整備や流通システムの確立、一戸一品運動の推進等である。全ての施策が町ぐるみで、町民が同じ方向を向き、官民一体となって進められている点は、大いに見習はなければならない点である。また、綾町の自然生態系農業推進の本質である・本物を求め、本物を作る・人をだまさない・人にも自然にも優しくという精神にも学ぶべき点は大きいと思う。

(中澤 荘也議員)



年間約15万人が訪れる「照葉大吊橋」

先人から受け継がれた伝統を守りつつ資源を生かした施策で交流人口拡大を図る ～西米良村(にしめらそん)における「自立」のむらづくり～

研修2日目、宮崎県中西部に位置する児湯郡西米良村を視察研修しました。全国からの認知度が高い村で、平成12年度の過疎地域自立活性化優良事例国交省(現在)庁官賞や村長自身が「観光カリスマ百選」に選ばれるなどテレビなどでも度々紹介されています。16世紀の初め、この地域に住み着いた菊池一族400年の歴史を現在も菊池精神として村民が受け継いでいます。

国内初のワーキングホリデー制度の導入、都市山村の相互ニーズを満たす交流システムや観光の新たな仕掛けづくりとして1年を通して毎週末いつでもイベントを開催しているカリコポーズの四季祭りなど、村民全員が交流を通して自立(律)を試みる村でした。

(藺田 靖邦議員)



西米良独自の施策に聞き入る議員

11月28～29日
町内2会場で開催
視察報告会

議員が企画運営する「視察報告」も本年度で4回目。両日で58名の方々がお越しくださいました。議員が作成した資料やパワーポイントを使ってテーマごとの報告を行った後、視察に関する質疑応答のほか日頃の議会活動や行政施策等、町民の皆さんとの意見交換を行いました。即答できなかったものは今後の議会活動の中で協議したいと思えます。

当日行われたアンケートとあわせて一部ですがご紹介させていただきます。

◎報告会で興味を持った・参考になった内容(丸数字は多い順)

①若者の移住・定住に関する取り組み(綾町)

短所を長所に…地域の特色・資源を生かした中山間地域のまちづくり・

町議会議員の 宮崎県行政

26年4月に「議会基本条例」を制定・議会改革に着手

～高原町(たかはるちょう)の議会運営と行政施策～

高原町は宮崎県南西部県堺に位置し、面積は本町の18%位で85.38km²、林原野は約50%、役場を中心に東西18km、南北10kmの場所に人口9,470人4,055世帯。一般会計54億円。役場職員数は病院企業50名を含め164名。

議会議員定数は10人で一般質問は召集初日に一問一答で持ち時間40分・質疑3回。常任委員会行政調査等も精力的とみえました。

町立病院は昭和25年に設立し内容も結核から人間ドック・リハビリ科等と進展し、近隣地域の中核病院として地域に密着した保健・医療・福祉・救急で貢献している。医療体制の整備が大切だとあらためて痛感しました。

ケーブルテレビ整備事業の維持管理等費用はIRU契約で相殺され、世帯加入率は37.37%インターネット契約は20.26%との説明でした。
(小藪侃一郎議員)



高原町では議長をはじめ関係職員から献辞を受けました

少子高齢化、過疎化が進む中山間地域における教育への取り組み

～五ヶ瀬町(ごかせちょう)の教育ビジョン～

●五ヶ瀬町教育委員会

小学校4校、中学校2校がある。少子高齢化等悪条件のなか、「他の市町と同じでなくてもよい」という理念のもと、きめ細かな教育を提供することが最大の使命と考え、各小、中学校間でG授業(合同授業)を実施。算数などは少人数で行い習熟度を高め、音楽や体育は多人数で行っている。地域に対する愛着や誇りを持つ子供の育成にも努めている。

●県立五ヶ瀬中等教育学校

(スーパーグローバルハイスクール(SGH))

全国初の公立中高一貫校。宮崎県内外から生徒を集め、中学1年から高校3年までの6年間を全寮制で過ごす。個性的で、秩序を持った豊かな人間性を培い、国際社会で活躍できる優秀な人材の育成を目指している。国公立大学等への進学実績は県内トップクラス。231名の生徒の内、五ヶ瀬町出身者は数名である。(坂本 政司議員)



「こたま寮」での規則正しい生活を通じ社会性や自立心等を養う



報告会の様子(文化会館)

- ② 五ヶ瀬中等教育学校
- ③ 五ヶ瀬町の学校教育 (G授業の取り組み)
- ④ 照葉樹林を生かした観光事業(綾町)
- ⑤ ワーキングホリデー制度などのむらづくり (西米良村)
- ◎ 御意見・御感想など
 - ・有機農法(進め方、産物の状況、消費者へのアピール等)についてもっと聞きたかった。
 - ・五ヶ瀬町の教育は本町に似た所が多いので参考にしてほしい。
 - ・議会基本条例を生かし予算や決算の報告を、視聴覚媒体の方法は良かった。パワーポイントデータを印刷した資料の配布を希望。